

科目名 放射線衛生学

1単位 15時間 昼間部3年 前期 担当講師 佐藤 斉

教育目標

放射線利用による健康障害の防止のために必要な知識として、放射線の特質や放射線防護の概念を知り、放射線施設における放射線管理手法および放射線の安全取技術などについて学ぶ。また、医療分野における放射線の安全利用について、放射線診療放射線技師としての使命を果たすために必要な放射線防護学的な知識と技術の基礎を習得する。

使用教材 プリント

推薦参考書 放射線健康科学 草間朋子, 他 杏林書店
放射線防護の基礎 辻本 忠, 他 日刊工業新聞社

出欠確認方法 開始前1回、授業中に随時無作為に指名し、出席を再確認する場合がある。

試験 有 評価方法 試験 + 出席

授業概要（前期）

- 1回 身近な放射線・放射能
身の回りの自然放射線と人工放射線について知り、社会生活中的の諸分野における放射線・放射能の利用状況を学ぶ。
- 2回 放射線防護の概念
放射線衛生学に関連する国際的な放射線防護の団体・組織と放射線防護の方針や考えを学ぶ。
- 3回 放射線の生物影響
放射線衛生学の観点から被ばく線量と放射線影響の分類を知り、リスク評価に基づく放射線防護の目標設定について学ぶ。
- 4回 医療における放射線利用
医療における放射線利用の実態と放射線衛生学上の課題などについて学ぶ。
- 5回 医療被ばく（1）
X線画像診断領域（一般撮影、MG）における患者被ばく線量の評価方法と、線量減方策を実現するための技術的手法や課題などについて学ぶ。
- 6回 医療被ばく（2）
X線画像診断領域（CT, IVR）における患者被ばく線量の評価方法と、線量減方策を実現するための技術的手法や課題などについて学ぶ。
- 7回 放射線診療従事者の被ばく
放射線診療従事者の被ばく線量の評価方法と被ばくの防護方策について学ぶ。
- 8回 環境と放射線
原子力災害などによる環境に対する影響と診療放射線技師の責務について学ぶ。

【実務経験】

放射線取扱主任者として大学病院と大学で35年間勤務。医療機関および教育研究機関での実務経験をもとに放射線安全管理と放射線防護の実際について話をします。